1/21 県福

父親の首絞め殺害

県警、容疑の57歳逮捕

福井

自宅で父親の首を絞めて殺害したとして、県警は十九日、殺人の疑いで、福井市みのり一丁目、県信用漁業協同組合連合会参事広瀬嘉一容疑者(五七)を逮捕した。広瀬容疑者は「介護がうまくいかず、かっとなったが、殺すつもりはなかった」と容疑を否認している。

「介護うまくいかず」

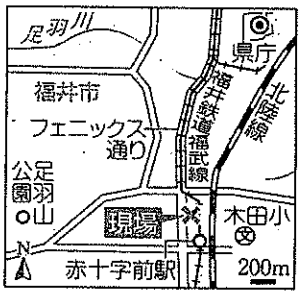
逮捕容疑では十七日午後十時ごろ、自宅一階の父一さん(八四)の寝室で、首にロープのようなものを巻き付けて結び、放置して殺害したとされる。死因は頸部圧迫による窒息だった。

県警によると、翌十八日午前七時ごろ、広瀬容疑者が「父親が冷たくなっている」と一一九番して発覚。一さんはベッドの上であおむけで死亡しており、ロープは外されていた。

県警は家族構成を明らかにしていないが、複数の知人によると広瀬容疑者は妻と一さんの三人暮らし。一さんはデイサービスを利用しており、家では主に広瀬容疑者が着替えや食事準備をしていた。ほかに外傷や床擦れはなく、県警は日常的な虐待はなかったと見ている。

現場はJR福井駅から南西に一・五キロの住宅街。

(上)犯行現場となった広瀬嘉一容疑者の自宅＝20日午前1時5分、福井市みのり1丁目で
(下)送検される広瀬容疑者＝20日午後2時28分、福井南署で



父親一さん 囲碁に熱心

殺害された広瀬一さん＝知人提供

亡くなった広瀬一さんは数年前まで活発に車で外出し、趣味の囲碁を楽しんでいた。十年近く通っていた囲碁同好会の男性会員(七三)は「物おじせず気ままな性格で、親しみやすい人だった。囲碁で勝つと楽しそうにしていた」と突然の死を悼んだ。

男性会員によると、一さんの囲碁の腕前は一級ほどで、家でも詰め碁などで熱心に練習していた。「一年ほど前に体を悪くしてからはあまり参加できなくなり、どうしているのかなと思っていた」と惜しんだ。

事件現場近くの人の多くは、長男の嘉一容疑者が介護をしていることを伝え聞いていた。同居していた容疑者の妻から直接話を聞いた近所の五十代男性らによると、容疑者の母は高齢者福祉施設に入所しており三人暮らし。妻は別の親族の世話に出掛けることが多く、容疑者と一さんが二人で家にいる時間が長かった。

近くの無職女性(七八)は「(親子の)仲が悪いとは聞いたことがなかった」と驚いた。

相談ためらい孤立感 容疑者

逮捕された広瀬嘉一容疑者は、父の一さんの死亡が発覚した十八日朝、職場の県信用漁業協同組合連合会(福井市大手二丁目)に「父が亡くなったので休む」などと電話で複数回、報告していた。律義な一面と、父の介護を抱えながらも周囲に相談することをためらい、孤立感を深めていた様子が浮かび上がる。

三十年来の同僚男性(五五)は十八日午前八時すぎ、「お父さんが亡くなったので休みます」との電話を職場で受けた。男性が「職場に知らせるので、葬儀の段取りが分かったら知らせて」と伝えたところ、約五時間後、「葬儀は未定」と再び電話してきた。真面目に連絡する姿勢に、男性は「普段の仕事ぶりと重なる」と感じた。

男性によると、広瀬容疑者には職場での無断欠勤や仕事上のトラブルはなく、「物知りでおしゃべり。人当たりも良く、仕事はよくできた」と話した。

介護での苦労は広瀬容疑者から聞いていたが、「お互いにほぼ同年齢。同じ問題を抱えているので深く聞こうとはしなかった」と悔やんだ。それでも「同じ境遇なので、自分でため込むしかないのが実情だ」と漏らした。

同連合会の代表者は「(事件前日の)十六日に会ったが、いつもと変わらない様子だった。介護をする家族を抱えているとは知らなかった」と驚いていた。